

滝の観音と茂木の立石

市民に親しまれた景勝地



①明治38年ごろ撮影された滝の観音
(竹下佳治撮影、長崎外国语大所蔵)

写真に見る
115年前の長崎

日露戦争時代

姫野 順一

□37□

三義造船所2代目所長の莊田平五郎が退任する際に市民有志が贈呈したアルバムに、写真師竹下佳行は、長崎近郊の自然風景として滝の観音と茂木の立石の写真を収載している。

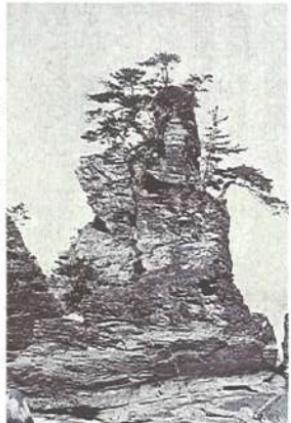
明治38（1905）年ごろ撮影されたとみられ、2枚のうち、写真①は、古くから市民に親しまれた「滝の観音」（平間町1646）の名滝である。高さ約30m、「一條の滝」とも呼ばれる。

観音は、ここに創建された黄檗宗の長瀧山靈源院の本尊魚籃觀音を指す。この禪堂は、黄檗宗弘法大師ゆかりの地で、唐留学を終えた弘法鐵巖が、万治3（1660）年に建立した。觀音像は寛文7（1667）年に江に立ち寄り、滝大師が延暦25（806）年に建立した。觀音像は寛文7（1667）年に唐商許賛授が寄進している。領主の諫早茂照はこの地の幽深を愛でて、元禄4年（1691）年、元禄4年（1691）年、一帯の山林を寺に寄進した。

写真②は、茂木から富羅へ向う海岸に、今も高くてびえる岩礁、立石である。文政年間（1818～30）に長崎聖堂の儒者であつた饒田喻義が編さんし、地役人野口文竜測義と画家打橋竹雲らの企画の過去の記録で、援助で稿本として残された「長崎名勝図絵」には、注連ヶ崎の後にあたり、「注連ヶ崎の後にあたり、海辺をはなれて海中があり、悄然としてそびえ立つ。」と書かれてある。この地の名前は、「行」を行い、水觀音の「行」を行ひ、水觀音の楚字を懸崖に記したと伝えられている。

写真③は昭和39（1964）年に長崎県における唯一の「名勝」に指定されている。滝の上部は昭和57年7月の長崎大水害で崩壊したが、昭和62年11月に復元された。

写真④は昭和44（1969）年に長崎を訪れた狂歌師大



②明治38年ごろ撮影された茂木の立石（竹下佳治撮影、長崎外国语大所蔵）

田南欽（蜀山人）もこの立石を見て、「またぐくそびえる岩礁、立石でひあら磯浪のたて岩を島じのみする人にませはや」と詠んでゐる。（長崎外国语大学長）

写真⑤は、長崎外國語大のホームページにアクセスできるQRコードです。
<http://www.nagasaki-gaigo.ac.jp/recnas/newsaper/>でも見ることができます。



長崎外国语大のホームページにアクセスできるQRコード

随時掲載します